

平成30年度「みやぎきの教育に関する調査」集計結果の概要について

平成31年3月29日
教育庁教育政策課

1 調査目的

「第二次宮崎県教育振興基本計画」の推進に関して、県教育委員会の施策及びその推進のあり方の改善を図るために、学校、家庭、地域、児童・生徒、教職員の現状や意識を把握する。

2 調査について

(1) 調査対象等

調査種類	調査対象	回答者数
学校向け	全ての市町村立幼稚園、小・中学校及び、県立中学校・中等教育学校・高等学校・特別支援学校	422校
家庭向け (抽出調査)	学校向け調査対象校の保護者（1校あたり3人程度）	1,225名
地域向け (抽出調査)	学校向け調査対象校の地域住民（1校あたり3人程度） ※ 県立中学校は附属する高等学校に含む	1,221名
児童・生徒向け (抽出調査)	抽出校（50校）の小学校5年生・特別支援学校小学部5年生（1校あたり1クラス）	1,211名
	抽出校（50校）の中学校2年生・特別支援学校中等部2年生（1校あたり1クラス）	1,173名
	抽出校（39校）の高等学校2年生・特別支援学校高等部2年生（1校あたり1クラス）	1,225名
教職員向け (抽出調査)	学校向け調査対象校（幼稚園を除く）の教職員（1校あたり4人程度）	1,307名

(2) 調査方法

- ・ 学校に調査用紙を送付して実施
- ・ 家庭、地域、児童・生徒、教職員には学校が依頼して実施

(3) 調査期間

平成30年12月11日～平成31年1月31日

3 調査の概要

(1) 学校向け調査について

問12 道徳の授業以外で、「いのち」の尊さや大切さに関する授業（活動）や取組を行っているとした学校の割合は99.3%（前年度98.1%）で前年度から1.2ポイント上昇した。

問18 ふるさと学習を教育課程に位置づけているとした学校の割合は90.5%（前年度88.7%）で前年度から1.8ポイント上昇した。校種別に見ると、高校は55.3%（前年度39.5%）で、前年度から15.8ポイント上昇した。

問28 働きやすい環境づくりに関する学校での取組は進んでいるとした学校の割合（「よく取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」の合計）は98.8%であった。（平成30年度調査からの設問）

(2) 家庭向け調査について

問8 地域のこと（よさ、問題、出来事、行事等）について、家庭で話すことはあるとした保護者の割合（「よくある」「ある程度ある」の合計）は88.8%（前年度86.4%）で、前年度から2.4ポイント上昇した。

問11 あなたやあなたのお子さんは、文化財のある場所や施設を訪れたり、催し物に参加したりしたことがあると答えた保護者の割合（「よくある」「ある程度ある」の合計）は64.9%であった。

（平成30年度調査からの設問）

問12 家庭が担うべき役割として回答された割合が上位の項目

※複数回答

項目	割合
基本的なルールやマナーを身につけること	94.7%
あいさつ、言葉づかい、礼節など日常生活習慣を身につけること	94.6%
物を大切にすることや望ましい金銭感覚の育成	88.1%

(3) 地域向け調査について

問3 学校支援ボランティアに取り組んでいると答えた地域住民の割合は97.3%（前年度95.5%）で高い割合である。

問6 子どもたちが地域の行事に積極的に参加していると答えた地域住民の割合（「参加している」「ある程度している」の合計）は92.0%（前年度91.9%）で高い割合を維持している。

問9 「みんながスポーツ“1130”県民運動推進事業」の取組を知っていると答えた地域住民の割合（「よく知っている」「ある程度知っている」の合計）は55.8%（前年度53.9%）で前年度から1.9ポイント上昇した。

(4) 児童・生徒向け調査について

問5 障がいの有無にかかわらず、同じ場で活動する機会が大切だと思うと答えた児童・生徒の割合（「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）は、小・中・高全体で96.7%（前年度95.8%）で、前年度から0.9ポイント上昇した。校種別では、小学生95.9%（前年度95.8%）、中学生97.0%（前年度96.1%）、高校生97.1%（前年度95.6%）となり、小・中・高とも前年度に比べて上昇した。

問8 宮崎県や自分の住んでいる市町村など、ふるさとが好きであると答えた児童・生徒の割合（「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）は、小・中・高全体で89.6%（前年88.3%）で、前年度より1.3ポイント上昇した。校種別では、小学生92.8%（前年度94.8%）、中学生88.6%（前年度86.1%）、高校生87.4%（前年度84.0%）となり、中・高では前年度に比べて上昇した。

問9 社会の役に立ちたいと思うと答えた児童・生徒の割合（「とてもあてはまる」「ある程度あてはまる」の合計）は、小・中・高全体で90.3%（前年度88.8%）で、前年度より1.5ポイント上昇した。校種別では、小学生89.0%（前年度90.1%）、中学生91.2%（前年度88.5%）、高校生90.7%（前年度87.8%）となり、中・高では前年度に比べて上昇した。

(5) 教職員向け調査について

問1 教師の資質や姿勢で特に大事だと思うと回答された割合が上位の項目

※複数回答

項目	割合
子どものよい面を伸ばし、やる気を出させる	70.5%
よくわかる教え方をする	52.2%
悪いことをしたらきちんと叱る	51.0%

問3 児童・生徒がICT機器を授業や学習活動などで活用する場面を設定していると答えた教職員の割合（「ほぼ毎日設定している」「週に一度ほど設定している」の合計）は44.0%であった。

（平成30年度調査からの設問）

問5 働きやすい環境づくりに関する学校での取組は進んでいると答えた教職員の割合（「よく取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」の合計）は84.4%であった。

（平成30年度調査からの設問）